

あなたが好き 私が好き 横須賀が好き と誇れる人づくり

2022/5/17 横須賀市教育委員会



5月号

検討委員会での議論 [後編]

前号では、横須賀市教育振興基本計画策定検討委員会での目指す姿に関する議論で「多様性を大事にする中で、地元愛が押し付けにならないように注意が必要ではないか」という問題提起がされたところまで紹介しました。

今回は、その後の議論の内容、「目指すのは子ども像か、人間像か」「どのような言葉、スタイルにするか」など、検討委員会でいただいたご意見をご紹介します。

未来の横須賀の教育に対する思い、大切にしたいこと（前号からの続き）

横須賀への思い

検討委員のご意見

- 横須賀を好きになり、自信を持って社会に出て、大人になって横須賀に戻り、貢献できる子どもに育ててほしい。
- （でも、）やはり「横須賀の教育をどうするか」なので、地域特性、横須賀の良さは自信を持って子どもにも市民にも発信すべき。ナショナリズムではなく、人として自然の、自分が生まれた土地や地域に対する愛情を共有した上で表現を工夫し、横須賀を愛していくということを大切に扱いたい。
- 目指す姿のフレーズには地域愛を込めるが、押し付けにならぬよう他の部分で案配をとり、子どもたちに地域を好きになってほしいという気持ちは込めたい。

- 私は外から横須賀に移り住み、子育てしながら横須賀のさまざまな所を回った。最初は分からなかったが、今、私は横須賀が好きです。子どもも横須賀を誇りに思っている。時間をかけ、大人が共に動き、よいところを見つけていくことが、最終的に故郷が好きということにつながるのではないか。



このように、前号でご紹介した「自立・自律、主体性、生涯学び続ける力」や「多様性、協働性」、そして「横須賀への思い」など、検討委員の皆さまに大変熱く、真剣に議論していただきました。

そして、何を指すか（子ども像か、人間像か）、目指す姿はどのような言葉、スタイルにするか、という点についても、ご意見をいただきました。



何を指すか

子ども像より、人間像（人づくり）が望ましい

- 子どもだけでなく、子どもも大人も学び合うという点は、人口減少を考えても大事。小、中、高で基礎固めした上で、大人になっても学び続けるといこと。
- 「子ども像」は違和感がある。基本計画を10年と考えると子どもは大人になる。子どもの教育と大人の教育はシームレス、持続可能に回らなければならない。
- 市民全体という視点が入ると良い。横須賀で暮らす人づくり、教育という計画に変えていくべき。
- 義務教育中心だと感じられてしまうので、高校の内容もバランス良く入れたい。成人年齢引き下げを考えても、「子ども」は少しそぐわないのではないかな。

どのような言葉、スタイルにするか

シンプルが良いが、そこに込めた思いや背景の説明は大事

- シンプルな表現の方がすべての市民に、子どもたちに分かりやすい。キャッチフレーズ、キャッチコピーのようなものを作ると、何がしたいかはっきり分かるのではないかな。
- 端的で、目に触れやすいものが良い。唱えやすく、覚えやすいことが大事。
- シンプルに、目を引かれるような計画でありたい。しかし、シンプルすぎても伝えたいことが伝わらないので、大きな枠組みとは別に説明書きも入れるなど、工夫が必要ではないかな。
- シンプルなことは賛成だが、抽象度が高くなれば、通り一遍の、別に横須賀でなくてもよいものになってしまう。理念の背後にあるもの、その心は何なのかということをかみ砕いて説明することは大切だと思う。



教育フォーラム、検討委員会で多くのご意見をいただき、いよいよ、目指す姿の作成に入りました。

次号

「横須賀の目指す教育の姿の考え方」へ続く

横須賀市GIGAスクール推進計画

Topic

これまで実践している横須賀の教育とICT教育環境のベストミックスを図り、本市の子どもたちに、今後、予測できない社会の変化を前向きに受け止め、主体的に向き合い、関わり合い、自らの可能性を発揮し、より良い社会と幸福な人生の創り手となるための力を育む学校教育の実現を目指して定める計画です。

具体的には1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、子どもの資質・能力が確実に育成できる教育ICT環境を実現することなどが盛り込まれています。

